

私のふるさと「庄内町」

都城市立庄内小学校 六年 中山 祐瑞

みなさんが思う「庄内町の良さ」とは何ですか？みなさんが住んでいる所にも、それぞれの良さがあると思います。その良さを、どう生かしていくか、そして、今後の未来にどうつなげていくかが大切だと私は思います。

私は、庄内町の良さは、主に三つあると考えています。一つ目は、歴史が深いということです。庄内小の校区には、四つの民俗芸能があります。毎年、五・六年生が民俗芸能の練習をしてふるさと祭りで踊っていましたが、今年も、去年も、新型コロナウイルス感染症のため、中止になってしまいました。とても残念です。二つ目は、自然がきれいだということです。庄内町には、関之尾の滝があり「日本の滝百選」に選ばれました。そんな有名な滝があることを、私はとてもほこりに思います。このきれいな自然を、今後も大切にしていき、たくさんの人に、この美しさを知ってもらいたいと思います。三つ目は、町のためにボランティアに取り組む方がおられるということです。毎朝、交差点で近所の方が見守りをしてくださいます。いつも私達の安全を守ってくださることに感謝しています。庄内小に通う私達も、毎朝ボランティア活動に取り組んでいます。落ち葉をはいたり、草取りをしたりと、庄内小をよりよくするためにはげんでいます。これからも、ボランティア活動に、町のみんなで取り組んでいけたらいいなと思います。

そして、私には、こんな庄内町にしたいという思いがあります。それは、人と人との交流を深めたいということです。今の時代は、SNSやインターネットなど、電波でつながる世の中だからこそ、人と人が寄りそい、きよりを縮めて、本当の「きずな」を結んでいきたいと思っています。例えば、高れい者の方が災害にあった時でも助け合える関係や、近所の人困っていたら相談できるような関係を築きたいです。ある時、父が店に来られたお客さんに、高れい者の方の中には、災害にあっても周りに迷わくをかけたくないと思っている人がいるという話を聞いたそうです。この話を聞いて、今、私達と高れい者の方との間には、少しきよりがあると思いました。

このような問題を解決するには、庄内町で、小さな子どもから高れい者までが参加できるようなイベントをつくっていけば、交流が深まるのではないかと思います。今、庄内町を盛り上げようとしている人達が、昔、行われていた「町民祭」を復活させる取り組みを進めています。町民祭では、運動会で小さい子どもから高れい者までバトンをつなぐ「人生リレー」という競技があったそうです。庄内町を盛り上げたいという声がたくさん集まると町民祭が復活できると思います。

この他にも、交流を深める方法はたくさんあります。庄内小では、「働くこと」について四人の方の話を聞くキャリア教育が行われました。四人の方の話に共通していたことは「人のために頑張ろうという思い」でした。町内の会社で働き聖火ランナーをされた二人の方の話を聞く機会もありました。「自分に自信があるから挑戦できる」「私もまねしてみたい」と思いました。このような交流をすることで、私は大切なことを学ぶことができました。どのように交流を深めていくか、庄内町全体で考えていきましょう。

私は、庄内町の良さや未来について考えていくうちに、あらためて町に対する自分の思いを見つめ直すことができました。これからの庄内町は、町の良さを生かし、人と人との交流をさかんにすることが大切です。私は、「庄内町が好きですか？」と聞かれたら、自信をもって「大好きです！」と答えることができます。私だけでなく、誰もが大好きな町と言えるようになることを目標に、庄内町が発展していくことを願っています。

菓子野地区にできること

都城市立菓子野小学校 六年 丸山 和道

僕は、自分が住んでいる大好きな菓子野町に恩返しをしたいです。今の僕にできることは、ボランティアやあいさつだと考えています。

まず、ボランティアで菓子野町を今までよりもきれいにすることです。そのためには、積極的に地区のゴミ拾いに参加したいと思っています。年に一度、公民館にみんなで集まり、何班かに分かれてゴミを拾ったことがあります。地域には、缶、レジ袋、タバコなどがいっぱい落ちていました。僕の大好きな町が少しでもきれいになるように、これからもボランティアに参加していきたいです。

もう一つボランティアでがんばりたいことは、学校のボランティア活動です。菓子野小学校の六年生は、早く来た人から、学校の近くの道路や落ち葉が落ちているところ、花だんなどをきれいにしています。六年間僕を育ててくれた学校がきれいになるとうれしいです。

二つ目は、あいさつです。僕は、人とすれ違うときにあいさつをしていない時がありました。これからは、人の目をちゃんと見てあいさつをすることを心がけたいです。それができたら、相手を意識しながら、大きな声であいさつをしていきたいです。これまで登校する時に、見守り隊の方へのあいさつの声が小さかったような気がします。ぼくたちが安全に登校するために見守りをしてくださっているのに「失礼だったな」と思いました。感謝の気持ちを伝える意味でも、自分の気持ちが伝わるようなあいさつをしていきたいです。そして、みんなが笑顔でよい雰囲気になるようなあいさつをして、菓子野町を明るくしたいと思っています。

僕は、菓子野町にボランティアやあいさつを通してたくさん恩返しをしていきます。みなさんも菓子野町や自分の町に自分なりの恩返しする方法がたくさんあると思うので、ぜひ見つけてください。これからは、人が笑って喜んでくれるような行動をとり、ぼくが大好きな菓子野町を明るく、元気な町にしていきたいです。みなさんも人が喜ぶことを考え、行動してみてください。そしてみんなで大切なふるさとを守っていきましょう。

目指せ！お医者さん

都城市立乙房小学校 六年 床次 絢音

わたしの将来の夢。それは、お医者さんになることです。お医者さんになりたいと思ったきっかけは、弟が小さい頃、「そけいヘルニア」という病気になり、お医者さんが手術をして治してくれたことです。お医者さんは、ずっと泣いている弟を泣きやませたり、ずっと弟のそばにいてくれたりしました。その姿を見た時に、(病院の先生は、何でも治すことができるんだ。かっこいい!)と強く思いました。その瞬間から、お医者さんになることが、わたしの夢になりました。

わたしがお医者さんになるために、今から身に付けたいことを考えました。

一つ目は、視野を広げ、様々な人に目を向けることです。多くの人をよく見ることで学校生活の中や地域で困っている人や良いことをしている人を見つけていきたいです。そしてその人に合った声掛けを積極的にしていきたいです。

二つ目は、いつでも強い心でいることです。私を見たお医者さんは、難しいことや悪い報告があったとしても、いつもわたし達を安心させてくれました。弟の病気が分かった時、私の家族や弟は

あせっていました。しかし、お医者さんの力強い言葉で、（このお医者さんに任せていたら、必ず治る。）と思えました。このお医者さんのように強い心であり続けるために、わたしはこれから、大変なことや嫌なことがあっても、最後まであきらめないで取り組み、強い心を育てていきたいです。

三つ目は、多くの経験をする事です。お医者さんは、何があっても堂々とされていると思います。それは、お医者さん自身が、多くの患者さんをみてきた経験から自信につながっていかれたのではないかと思います。わたしもこれから、中学校、高校、大学と進んでいく中で、多くの経験をしたいです。だから多くのことに挑戦したいと思います。

わたしがお医者さんになったら、庄内・乙房地区に誰でも通える、大きな病院を建てたいです。その理由は、庄内地区には病院が少ししかありません。その反面、病院を必要とする高齢者の方はたくさんいらっしゃいます。だから、高齢者の方が行きやすいよう、わたしが大きな病院を建てて、お医者さんをどんどん増やしていきたいと思います。

わたしがお医者さんになり、庄内・乙房地区を健康で笑顔の多い地域にすることで、恩返しをしたいと思います。

他の地域に誇れる庄内の町

都城市立庄内中学校1年 児玉 百幸

私は自分が住む地区のいいところについてたくさん言うことができます。庄内地区は歴史が深く、建物などの設備が充実した豊かな町です。この町のアピールポイントとして「元気なあいさつ」と「歴史や伝統芸能」の二つについて意見を述べようと思います。

まず、「元気なあいさつ」についてです。庄内中では「GETJ」「G」元気よく、「E」笑顔で、「T」立ち止まって、「J」自分からという合言葉であいさつを活発にすることが心がけられています。また、乙房小では「あ・い・さ・つ」「あ」明るく、「い」いつでも、「さ」先に、「つ」続けてを目標にあいさつ日本一を目指しています。このように小学生や中学生が元気にあいさつをすることで、地域の方々は元気になります。近所に住む方は「子どもたちが笑顔で元気にあいさつをしてくれると自分も元気になって大きな声であいさつを返したくなる」とおっしゃっていました。あいさつは人と人をつなぐ大切なコミュニケーションだと私は思います。「おはようございます」「こんにちは」この一言をどのように言うかでその地域全体の状態や明るさが変わってくるのではないかと思います。今の庄内地区は、あいさつがとても活発で人同士の結びつきがとても強いと思います。コロナウィルスがおさまれば、地域全体で交流する機会が増え、庄内地区の人同士の結びつきがより一層強くなると思います。さらに私が今できることとして、「元気なあいさつ」を地域全体に広げるために、あいさつ運動を呼びかけるポスターを作りたいと思います。そのポスターを庄内、菓子野、乙房、関之尾のそれぞれに配付される回覧板と一緒に配ってもらいたいです。そうすることであいさつ運動への意識が高まり、地域全体であいさつが活性化されると思います。そして、庄内地区全体に元気なあいさつを広めていきたいです。

次に「歴史や伝統芸能」についてです。庄内地区には様々な歴史の深いものがあります。例えば、願心寺、田の神様がいる乙房神社、平田かくれ念仏洞があります。伝統芸能では、乙房やっこ踊り、三味線、南州太鼓などが伝えられています。このような庄内地区の誇りである歴史の深いものは、何十年、何百年と後生に引き継いでいかなければなりません。そのために「庄内を語る会」の方々や「庄内地区まちづくり協議会」の皆さまが子どもたちに、遺跡を紹介してくださったり、伝統芸

能を教えて下さったりしています。しかし、伝統芸能では、指導して下さる方々がだんだん減ってきたり、指導者の高齢化により人手不足となったりしてしまい伝統芸能というものがどのようなものなのか知らない人が増えてきました。このような状況を変えるために、私はインターネットを活用して、庄内の歴史や伝統芸能について他の地区や町、世界に向けて紹介したいと思います。世界中のたくさんの人に庄内の素晴らしさを知ってもらおう機会を作りたいと思います。今はコロナ禍で、他の地域に伝統芸能を披露することができず、広げることができない状況ですが、私たちの世代がこれまで残されてきたものを大切にすることを忘れず、なくさないようにすることが大事だと思います。

私はこの魅力ある豊かな庄内の町を他の地域に誇れる町にしたいと思っています。「元気なあいさつ」、「歴史や伝統芸能」、他にも数えきれないほどの魅力がある町、それは庄内の町しかないと思ってもらえるように、先ほど述べた二つの取組を一つ一つしっかりと達成していきたいです。地域全体ですばらしい庄内地区をつくっていきましょう。

庄内の魅力を守るために

都城市立庄内中学校 2年 坂元 美由紀

みなさんが考える庄内の魅力とは何ですか。私にとって、庄内の魅力といえば、豊かな自然と奥深い歴史です。私はそんな庄内の魅力を守り、私たちよりも後の世代につなげていきたいと思っています。そのために私たちができることは「自然を守ることの大切さ」を知り、「人と人のつながりを絶やさない」ことだと考えます。この2点についてどうすれば実行できるのか私なりに考えてみました。

まず、「自然を守ることの大切さ」についてです。私の住む地区には、関之尾の滝を筆頭に、雄大で美しい自然があります。しかし、そんな美しい景観を前にゴミが落ちているのをよく目にします。ペットボトル、ビニール袋、最近では新型コロナウイルスの影響で日常的につけるようになったマスクのゴミを登下校の最中、見かけることが多くなりました。それらのゴミは、景観を汚すだけでなく、河川や海に流れ出すことで、目の前にある豊かな水の資源を損なうことにつながります。水は自然が与えてくれる恵みですが、世界中の海でたくさんの漂流物があることをニュースで見かけ、心が痛むことがあります。水資源を汚すことはたくさんの循環に影響を及ぼします。特にプラスチックごみは、自然界では分解することが不可能で、生態系を壊す危険性をもっています。それは世界的に見ても大きな問題ですが、スケールが大きくなると自分ひとりの力ではどうすることもできないように思えて、何もできなくなることも事実です。そんな時、環境について授業で学習した時、世界ではSDGsの取組がされていることを知りました。世界中にある環境問題、差別、貧困、人権の問題といった課題をみんなで解決していこうというこの計画や目標は身近なことからでもはじめられるようなヒントを私に与えてくれました。例えば、ゴミの問題を解決していくために地域に住む小中学生と、地域の方々と交えたゴミ拾いを提案したいと思います。コロナの影響で、中学生が地域に出向く機会が減ってしまいましたが、屋外でゴミ拾いという活動を通して、地域を守る意識を高めることはとても大切だと思います。私は今、生徒会の副会長という立場なので、このような取組をみんなに提案し、呼びかけていけたらと思っています。これはSDGsの17の提唱の中の「14. 海の豊かさを守ろう」と「15. 陸の豊かさを守ろう」につながっていくと思います。

次に、「人と人とのつながりを絶やさない」ことについてです。先ほど述べたように庄内には奥

深い歴史があります。1年生の時に地域巡見の授業を通して、その土地が江戸時代に栄え、それが今も残っていることを学びました。また、庄内には、民俗芸能という昔の暮らしや姿を学ぶことができるものもあります。私も実際に夫婦踊りを習う機会がありました。指導者の方が一生懸命教えて下さいましたが、手足の動きが難しく、大変だった記憶があります。このような伝統芸能は脈々と先祖から受け継がれてきたもので、人と人がつながり、守られてきたものです。しかし、昔のように地域が結びつく機会も徐々に減り、しかもコロナ禍により、さらに人との交流が難しくなっていました。しかし、人とのつながりはそれで断たれてしまうのかというと、その一方で、発達しているものがあると思います。学校ではタブレットが使えるようになり、集会もリモートで行うことが多くなりました。インターネットを介した新しいつながりが誕生しています。新しいものの力を借りて、伝統芸能を披露する場をつくることもできるし、いろいろなところに私たちの歴史や文化を伝えていく機会にもなるのではないかと考えます。そうすることで人と人がつながっていくことができるのではないかと思います。

庄内の豊かな自然とその歴史の奥深さは誇るべきものです。この発表の機会を通じて、私自身もより一層、庄内について考えることができました。この会のように、それぞれの想いを伝え、知ることが庄内の魅力を守るために大切だと感じました。自分にできることをこれから一つ一つやっていこうと思います。